

### 樽商大が入学式中止

【小樽】新型コロナウイルスの感染拡大を受け、小樽商科大は10日、4月2日に予定していた入学式中止を決めた。新入学生向けに学長の式辞などを動画で撮影し、同2日以降に同大ホームページで配信する。同大は今年17日に予定していた学位記授与式(卒業式)の中止もすでに決めている。

### 宮蘭フェリー17日運航再開

川崎近海汽船(東京)は10日、横浜港で新型コロナウイルス対策に当たる自衛隊が使用していた、室蘭市と岩手

# 無名活動家の生涯 克明に

## 新十津川出身 西田信春の本格評伝

戦時色が強まっていた1933(昭和8)年、作家・小林多喜二の拷問死の直前に、やはり特高警察に検挙され、福岡県で死亡した社会運動家だった北澤清出身の共産党員西田信春(死時30歳)が散在していた資料を、がん闘病を押して収集した同郷の元高校教師が、初の本格的な評伝にまとめ、無名の活動家の生涯に光を当てた。専門家も高く評価する評伝は西田の命日とされる2月11日に刊行された。

【津島史人】

### 長沼の元教諭・上杉朋史さん がん押して執筆、完成後死去

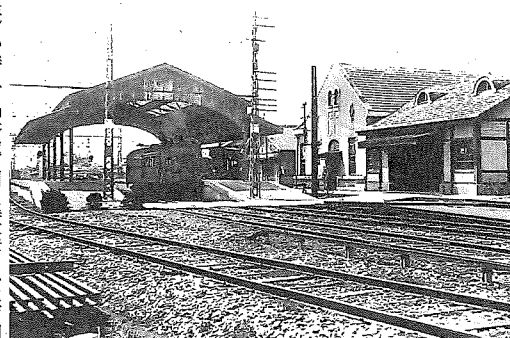
新十津川村(現・新明)に、同様に監視戸十津川町)出身の西田 築地警署に拷問を受けた旧制一高から東京帝 多喜二の死亡(33年2大に進み、学生運動団 月20日の9日前のこ 体「新人会」での活動 を経て、29年3月、共 た西田について詳 産党に入党した。その し書かれた本格的な 翌月、全国の労員が 評伝は「代表作の 一筆」をほめて今 多喜二とは対照的に、 存存自体、歴史の片隅 で忘れられていた。そ 逃していった西田は服 の西田に興味を持った 役することなく、壊滅 のが、2008年10月 状態だった九州の組織 に巧みと「なつた長 再建に向かい、そのま 沼町の上杉朋史さん 失脚した。 だ。定年退職後に自身 のルーツをたどる ち、父兄と同じ新十津 川村出身の西田を知 るのはないか」との説 明もあって、九州全域 であった共産党員弾圧 始めた。 上杉さんは、西田と の警察署で拷問され死 交流のあった、後の社 会思想研究者・石堂清 倫(1904〜200



2月11日に発売された「西田信春—甦る死」

### 特高による拷問死 新資料交えて

このため一時期は 当局的スパイだった 川村出身の西田を知 るのはないか」との説 明もあって、九州全域 であった共産党員弾圧 始めた。 上杉さんは、西田と の警察署で拷問され死 交流のあった、後の社 会思想研究者・石堂清 倫(1904〜200



西田が特高警察に検挙されたといわれる昭和初期の西鉄久留米駅。福岡県久留米市教育委員会所蔵

真相を突き止めよう と戦後も調査を続けた 石堂らの活動で、失踪 翌日の2月11日夕、西 田とみられる遺体が氏 名不詳の「傷害致死事 件被害者」として解剖 されていたらしいこと が判明した。鑑定書で 死因は「病死」などと されていたという。 鑑定した医師の証言 も、石堂らは得た。遺 体となった人物につい て警察関係者が「久 留米駅で捕まえた「非 常に強い抵抗を示し た」「あんまり白状し ないから足を持って2 階から階段を上から 下まで引き下ろし」 「4、5回やったら 死んじゃった」などと 話していたのを聞いた という。 評伝は生前の西田の 素顔にも迫った。 東大時代の西田はホ ー卜部の活動に熱中し たが、本人の日記では 「(ホー卜は)苦悶と 云ふ仮面を被った事象 に過ぎない」(25年6 月)と、厳しい社会情 勢で青春を謳歌するこ とに悩む姿をのぞかせ ている。「四・一六事件」 で逮捕された後に中野 の妹鈴子に宛てた手紙 では「恣に人影が射す が……若い女の人か年 まの人か、それも見分 けがつかぬ」「鉄棒と 金網の邪魔臭い」と、 獄中生活を知らせて いる。 上杉さんは西田家の 墓を訪ねるなど精神的 に取材を始めた直後の 翌日の2月11日夕、西 田とみられる遺体が氏 名不詳の「傷害致死事 件被害者」として解剖 されていたらしいこと が判明した。鑑定書で 死因は「病死」などと されていたという。 鑑定した医師の証言 も、石堂らは得た。遺 体となった人物につい て警察関係者が「久 留米駅で捕まえた「非 常に強い抵抗を示し た」「あんまり白状し ないから足を持って2 階から階段を上から 下まで引き下ろし」 「4、5回やったら 死んじゃった」などと 話していたのを聞いた という。 評伝は生前の西田の 素顔にも迫った。 東大時代の西田はホ ー卜部の活動に熱中し たが、本人の日記では 「(ホー卜は)苦悶と 云ふ仮面を被った事象 に過ぎない」(25年6 月)と、厳しい社会情 勢で青春を謳歌するこ とに悩む姿をのぞかせ ている。「四・一六事件」 で逮捕された後に中野 の妹鈴子に宛てた手紙 では「恣に人影が射す が……若い女の人か年 まの人か、それも見分 けがつかぬ」「鉄棒と 金網の邪魔臭い」と、 獄中生活を知らせて いる。 上杉さんは西田家の 墓を訪ねるなど精神的 に取材を始めた直後の 翌日の2月11日夕、西 田とみられる遺体が氏 名不詳の「傷害致死事 件被害者」として解剖 されていたらしいこと が判明した。鑑定書で 死因は「病死」などと されていたという。 鑑定した医師の証言 も、石堂らは得た。遺 体となった人物につい て警察関係者が「久 留米駅で捕まえた「非 常に強い抵抗を示し た」「あんまり白状し ないから足を持って2 階から階段を上から 下まで引き下ろし」 「4、5回やったら 死んじゃった」などと 話していたのを聞いた という。 評伝は生前の西田の 素顔にも迫った。 東大時代の西田はホ ー卜部の活動に熱中し たが、本人の日記では 「(ホー卜は)苦悶と 云ふ仮面を被った事象 に過ぎない」(25年6 月)と、厳しい社会情 勢で青春を謳歌するこ とに悩む姿をのぞかせ ている。「四・一六事件」 で逮捕された後に中野 の妹鈴子に宛てた手紙 では「恣に人影が射す が……若い女の人か年 まの人か、それも見分 けがつかぬ」「鉄棒と 金網の邪魔臭い」と、 獄中生活を知らせて いる。

1年)や詩人・中野重 州に派遣された西田 治(1902〜79年) は、福岡市を拠点に らが戦後、失踪の状況 「四一六事件」「伊藤」 の愛を活動、仲間か とともにまとめた「西 のよひ言葉」(会った 田信春書簡・追憶)を ひに非常な勇氣とけり 候補となった作家で西 田の秘書役だった牛島 春子(1913〜200 だ。33年2月10日、 福岡県久留米市中部 で落ち合ったはずだっ た同志との定時連絡に 西田は現れなかった。同 時刻、指定場所近くの 西鉄久留米駅付近で 「強盗の捕物があった」といふと後に同志は 証言する。この日、後 の新聞に「天検挙」の 見出しが躍った特高に 対する大規模な取り締ま りが行われていた。35 年に公表された当時の 逮捕者名簿に、愛名で 活動した西田の名はな かった。

「供養のためにも専 門家に読んでもらいた い」と元同僚の手を經 て原稿を託されたの が、特高警察などの研 究で知られる荻野富士 夫・小樽商科大名誉教 授(86)だった。「一読し て「すべし出版すべき だ」と価値を認め、弾 圧された活動家らの名 誉回復活動に取り組み だ。治安維持法犠牲者国 家賠償要求同盟の藤 田広登顧問(85)に相 談。荻野さんを代表と する刊行委員会を結成 し出版が実現した。

荻野さんは「多喜 二とは違う書きを持つ 西田は無多分か、もっ と知られるべき存在 だ。上杉さんの作品 は人物像の基礎を作 り、当時の時代状況を より深く理解する手 がかりとなる」と評価 する。

評伝「西田信春— 甦る死」は学習の友 社(東京)から出版。 問い合わせは藤田さん (090・45597・ 1129)。